# 現代英語の分詞構文（その１）
## ——*Animal Farm* の分詞構文——

福　島　一　人

## I

分詞構文は文語的であり，特に独立分詞構文に到っては非英語的である，ということが Sweet にも言われている[1]。分詞構文を用いた明らかに文語的である次の例を native speakers に見せたとき，極端な場合，'not good English' のような評価がされることがあることからも，このように考えられがちである。

1. My eyes, not being so much under control as my tongue, were attracted towards my aunt very often during breakfast.

'not good English' と評価される第１の理由は，この分詞構文の主文に対する修飾関係（以後，本稿では「分詞構文の意味」と呼ぶ）が，「漠然」としている点であろう。同一のnative speaker は，分詞構造を次のように節に置き換えれば，「はっきり」すると言う。

2. My eyes, as they were not so much under control as my tongue, were attracted towards my aunt very often during breakfast.

つまり 'not good English' は，文法的な逸脱を意味しているのではない。この評価が下されるのは，分詞構文が表し得る意味が豊富なことに因るのである。もちろん，1. を見ても，'not good English' のような評価を下さない native speakers もいるわけであるが，彼等の中には，「文語体」「口語体」という区別を相対的に明確にできる者が多い。一方，'not good English' と評価する者の中には，「文語」も「口語」も本質的に区別をせ

ず，現在自分達が日常会話において用いている言葉が，文章体においても実現されるべきだ，という考えを持っている者が多いように思われる。native check に際しては，このことに注意すべきであろう。

結局，分詞構文が，「本質的に文語である。」ということに問題はないようである。

しかし，後述するが，分詞構文の用例中では，「付帯状況」を表すものが最も多く，また，この意味を節形式で表現することが難かしい[2] ことからすると，「口語では通例，節形式を用いる。」[3] ということで分詞構文一般を述べるのは，若干，大ざっぱ過ぎるように感じられる。

さて，「日常会話において用いられる言語が文章体においても実現されるべきだ。」とする native speakers が見られることは，将来，文語においてすら，一般的に分詞構文が衰退する可能性があるように思われる。（「付帯状況」を表し得る 'while' 'as' 等に導かれる節構造が，現在よりも発達することが条件となるであろう。）

しかし，現在のところ，分詞構文の使用例はかなり見られる。次のように会話文に見られることもある。

3. I could not understand them, being stupid from birth. —Pearl S. Buck, *The Lesson*.〔安藤貞雄〕[4]

4. In sheer malignity, thinking to set back our plans and avenge himself for his ignominious expulsion, this traitor has crept here....—George Orwell, *Animal Farm*.

作家の好み，作品の内容，文体等で，分詞構文の使用頻度は，当然異なるだろうが，特に George Orwell, *Animal Farm* では，その使用頻度が高いように思われる。

以下，本稿では，*Animal Farm* の用例をもとに，現代英語における分詞構文の検討を行なう。あくまでも，一作家，一作品での使用例の考察，ということになるが，結果的には，現代英語の語法の一端を把握することになるであろう。

用例収集にあたって，テキストは Penguine Books のものを使用した。

用例中のアンダーラインは筆者によるものである。

## II

*Animal Farm* 中での分詞構文の用例数は158であった。但し，分詞が2つ並列されている場合，2例として計算した。

これらの分詞構文の意味は，さまざまで，「付帯状況」「原因・理由」「時」「結果」「並列」「譲歩」「条件」「方法・手段」が考えられた。しかし，このような分類は，しばしば言われるように[5]，大体，はっきりすることはできず，いずれかの意味が，他の意味より，比較的優勢というにすぎなかった。

158の用例中，唯一の意味にしか解釈できない用例は，「付帯状況」の用例中にあった。一方，その他の用例のなかには，同時に「付帯状況」の意味に解釈できるものが多い。つまり，「付帯状況」の意味をもつと考えられるものが，一番多かったのである。

本章では，「付帯状況」の用例中でそれ以外の意味を併せもつ，と考えられる場合，その意味を一応優勢と考え，「付帯状況」以外の用例に分類する。そして，それぞれのグループにおいて，分詞構文の構成素，主文との‘時’の関係，位置，他の分詞構文との畳用，接続詞の有無等について簡単に触れてみる。

### (1) 「原因・理由」

5. And when the human beings listened to it, they secretly trembled, hearing in it a prophecy of their future doom.—p. 36.

6. Unfortunately, the uproar awoke Mr Jones, who sprang out of bed, feeling[6] sure that there was a fox in the yard.—p.14.

7. ...three hens had come forward and confessed that, inspired by Snowball, they had entered into a plot to murder Napoleon.—p.81.

以上を含め，「原因・理由」を表すと考えられる用例は15例あった。

しかし，これらのなかには，どちらの意味が，比較的はっきりしているかを決定できず，全く「付帯状況」の意味にも解釈できるものがかなりある。つまり，主文との論理関係上，「原因・理由」に分類する可能性があるというだけで，「付帯状況」に分類してもさしつかえがないものが多い。このようなことは，「時」「譲歩」の用例についても言える。分詞構造の‘時’と主文の‘時’が，部分的に，あるいは，完全に一致している場合に多かったのである。

●15例のうち，主要素が現在分詞のものは9例，過去分詞のものは6例であった。

このグループでは，過去分詞を主要素とするものがかなり多かった。（本稿で「主要素が現在分詞である」ということは，分詞構造が能動態であることを意味する。従って，完了分詞の用例でも，能動態であるなら，「主要素が現在分詞である」とする。）

過去分詞を主要素とする用例で，‘being’が補われているものは，次の1例であった。

8. After a little thought, the pigs sent for buckets and milked the cows fairly successfully, their trotters <u>being</u> well <u>adapted</u> to this task.—p.24.

これは，分詞の主語が補われた独立分詞構文である。他に，‘being’が補われているものは，「結果」の用例のなかに1例あった。この用例も独立分詞構文であった。*Animal Farm* 中では，主語が補われていない分詞構文（「単純分詞構文」と呼ぶ。）において，主要素が過去分詞の場合，その主要素が‘being’‘having been’に導かれる用例は無かった。

●完了分詞を用いた用例は次の1例であった。

9. Then, the applause <u>having come</u> to an end, the company took up their cards and continued the game that had been interrupted....—p.120

これは，「時」を表すとも考えられる。他に，完了分詞を用いた例は，僅か2例であり，いずれも「時」を表すと考えられるものであった。

*Animal Farm* は，作者が常に作品に現れており，characters はすべて3人称，という手法で書かれており，characters の動作，状態を作者の目から精細に描写している。このことは，空間的，と同時に時間的にも言えることである。特に，各動作，状態の時間差に Orwell が注意を払っていることが，同一文中で，過去時制と過去完了時制との共起が多く見られることから，推量できるのである。

例えば，分詞構文に対応する副詞節の1つである when 節を含む例を挙げる。

10. When they had finished their confession, the dogs promptly tore their throats out....—p.73.

11. They had just finished singing it for the first time when Squealer, attended by two dogs, approached them with the air of having something important to say.—p. 76.

12. A few days later, when the terror caused by the executions had died down, some of the animals remembered —or thought they remembered —that the Sixth Commandment decreed....—p.78.

10.12.における過去完了を単純過去時制に置き換えたとしても，文意にそれほど損傷を与えない。特に，現代米語の口語においてなら，過去時制を現在完了や過去完了のかわりに使うことが極めて多い[7] から，そのように言えるであろう。11.についても，若い世代なら，英国人であっても，'They just finished....' とすることに抵抗を感じないと思われる。

さて，Orwell は，このように従属節中に過去完了を多用している。主文の動作，状態より以前の'時'を表現する手段を備えた分詞構造についても，これと同じ時間差に対する注意が見られそうなものであるが，かかる文法手段である完了分詞の用例は，3例であった。一般に，分詞構造の'時'が，主文の'時'より前になる可能性があるのは，「原因・理由」「時」「譲歩」であろう。*Animal Farm* で，この3グループに属すると思われる用例は，28例であったが，このうち完了分詞の用例は3例であった。従っ

て，定動詞 (finite verb を意味する。）構造における時制への留意と，分詞構造におけるそれとは，必ずしも比例しているとは思えないのである。

「原因・理由」を意味する分詞構文の文中の位置については，

● 主文の前に位置するもの7例，後に位置するもの8例であった。

「時」「譲歩」を表す分詞構文と共に，他の意味の分詞構文に比べて，主文の前に位置するものが多かった。

〔主文の前〕

13. Finding herself unable to read more than individual letters, she fetched Muriel.—p.59.

14. At last, feeling this to be in some way a substitute for the words she was unable to find, she began to sing 'Beasts of England'.—p. 76.

〔主文の後〕

15. She took a place near the front and began flirting her white mane, hoping to draw attention to the red ribbons it was plaited with.—p.7.

16. After the harvest there was a stretch of dry weather, and the animals toiled harder than ever, thinking it well worth while to plod to and fro with blocks of stone.—p.61.

主文の動詞の直前や直後に位置する，すなわち，主文に挿入されているような用例は無かった。

他の分詞構文との畳用についてであるが，

● 「原因・理由」を意味する分詞構文が，他の分詞構文と畳用されている用例は無かった。

### (2) 「時」

分詞構文の'時'が，主文の'時'よりも前で，主文との時間差が比較的はっきりしているものが多かった。「結果」を意味する分詞構文と共に，

「付帯状況」を意味するものと，ある程度区別がつけられるものである。‘when 節’や‘after 節’に対応するものであった。

● 「時」という意味をより明確にするため，接続詞‘when’を補っている例が2例あった。

17. They continued to behave very much as before, and when treated with generosity, simply took advantage of it.—p.29.

18. When captured he said, Frederick should be boiled alive.—p.86.

*Animal Farm* の用例で，分詞構文に補われている従位接続詞は，‘when’の他に‘though’があったが，これらの用例の主要素は，すべて過去分詞であった。等位接続詞‘and’が補われている用例もあった。これらは，「結果」，「付帯状況」を意味し，これらの主要素は，従位接続詞の場合と異なり，すべて現在分詞であった。「付帯状況」の用例の中には，「並列」の意味にも解釈できるものがあり，等位節に平行するものが多い。

17. 18. を含め，「時」を表すと考えられる用例は11例であった。これらのうち，

● 主要素が現在分詞のものは9例，過去分詞のものは2例であった。

このグループでは，現在分詞を主要素とするものが多かったのである。

● 完了分詞を用いた用例は，次の2例であった。

19. These two had great difficulty in thinking anything out for themselves, but having once accepted the pigs as their teachers,they absorbed everything that they were told....—p.75

20. Having got there,he collected two successive loads of stone.—p.75.

● 分詞構文が主文の前に位置するものは5例，後に位置するものは2例，

主文の動詞の前に位置するものは4例であった。

〔主文の前〕

用例18.19.20. の他に次の2例があった。

21. But they woke at dawn as usual, and suddenly remembering the glorious thing that had happened, they all raced out into the pasture together.—p.20.

22. Going back, the others found that she had remained behind in the best bedroom.—p.21.

〔主文の後〕

23. 'Now, comrades,' said Snowball, throwing down the paint-brush, 'to the hayfield...'—p.24.

24. Napoleon took them away from their mothers, saying that he would make himself responsible for their education.—p.32.

〔主文の動詞の前〕

20. の他に次の3例があった。

25. At this Snowball sprang to his feet, and shouting down the sheep, who had begun bleating again, broke into a passionate appeal....—p.47.

26. But just at this moment Napoleon stood up and, casting a peculiar sidelong look at Snowball, uttered a highpitched whimper....—p.47.

27. But a few days later Muriel, reading over the Seven Commandments to herself, noticed that there was yet another of them....—p.93.

### (3) 「結果」

「時」を意味する分詞構文と同様，主文との時間差が比較的はっきりしていた。「時」のグループよりも，時間差がさらに明確である。従って，この用例のなかに，「付帯状況」の意味に解釈されるものは無いように思われる。用例数は，11であった。

● 「結果」という意味をより明確にさせるため，接続詞 'and' を補って

いる例が2例あった。

28. He...would stand staring at the letters with his ears back, sometimes shaking his forelock, trying all his might to remember what came next and never succeeding.—p. 30.

29. ...but in another moment the van was through it and rapidly disappearing down the road.—p.105.

● 主要素が現在分詞のものは10例，過去分詞のものは，次の1例だけであった。

30. ...the sheep who had been killed was given a solemn funeral, a hawthorn bush being planted on her grave.—p. 40.

しかし，この過去分詞を主要素とする例も，'being' が補われているのである。

8. ...the pigs sent for buckets and milked the cows fairly successfully, their trotters being well adapted to this task.—p.24.「原因・理由」

*Animal Farm* で，過去分詞を主要素とする独立分詞構文[8] は，8.20.の2例の他に，31.32.を含む4例，合計6例があった。

31. To see him toiling up the slope inch by inch, his breath coming fast, the tips of his hoofs clawing at the ground, and his great sides matted with sweat, filled everyone with admiration.—p.55.

32. There lay Boxer, between the shafts of the cart, his neck stretched out, unable even to raise his head.—p.101.

「原因・理由」の用例である 8. において，当該分詞構造は，一般的内容を表し，また，その '時' は，主文の '時' より幅が広い。「結果」の用例である30.において，それは主文の '時' よりも後である。一方，「付帯状況」の用例である，31. 32. を含む4例において，当該分詞構造の '時' は，主文の '時' とほぼ一致していると言えよう。そしてこれら「付帯状況」の4例の中に，'being' が主要素の前に補われている用例は無かったのである。

*Animal Farm* 中の過去分詞を主要素とする分詞構文においては，'being'

が補われている場合，当該分詞構造の‘時’は主文の‘時’と一致しておらず，一方，‘being’が補われていない場合，主文の‘時’に一致している，と大体言えそうである。

●完了分詞を用いた用例は無かった。

「結果」の用例11例のうち，主文の動詞の時制が過去のものは9例であった。

2例は，主文の時制が過去完了と考えられるものであった。

33. It happened that Jessie and Bluebell had both whelped soon after the harvest, giving birth between them to nine sturdy puppies.—p.31.

34. In the autumn the four sows had all littered about simultaneously, producing thirty-one young pigs between them.—p. 96.

34.の主文の動詞は，明らかに過去完了で，分詞構造の‘時’はそれよりも新しい。34.と似た内容である33.の主文の動詞については，主文の動詞を‘happened’とし，過去と考えるのか，‘had whelped’とし，過去完了と考えるのか，多少迷う。しかし，‘It happened that...’という構造が，「たまたま」，「偶然」のように機能的には副詞に近い働きをすることが多く[9]，また同一小説中で34.のような類似例が存在することから，33.の主文の動詞は過去完了であると考える。

さて，主文の動詞の時制が単純過去のものは，9例であったが，完了分詞の用例は無かった。主文の動詞が過去である完了分詞構造に平行する定動詞構造は，過去完了である。過去完了は，過去における過去（大過去）と，過去における完了（完了）を表す可能性がある[10]。従って，同一文中に，単純過去と，後者の意味の過去完了が共起している場合，過去完了が過去よりも新しい‘時’を表すこともある。

35. I was already a little in love with her before I had finished my first bottle of beer.—Jack Seward, *On Japan Again.*

36. I saw him before he had seen me [Jespersen]

37. He did not see me till I had seen him. [Jespersen]

38. He was asleep long before she had finished her work.—Caldwell, *The Midwinter Guest.*〔尾上政次〕

しかし，このような例は，'before' 'till' に導かれる節中に時々見られるのであり，他の節中ではまず無いと思われる。そして，before 節や till 節に平行する分詞構文が考えられないことからも，かかる過去完了に対応する完了分詞は無いと思われる。*Animal Farm* 中でもこのような例は発見できなかった。

● 分詞構文は，すべて主文の後にあった。

● 他の分詞構文と畳用されている例は，1例あった。

39. With the ring of light from his lantern dancing from side to side, he lurched across the yard, kicking off his boots at the back door....—p.5.

39. は「付帯状況」の with に導かれる分詞構文と畳用されている。

40. He would trace out A,B,C,D, in the dust with his great hoof, and then would stand staring at the letters with his ears back, sometimes shaking his forelock, trying with all his might to remember what came next and never succeeding.—p.30.

40. の 'never succeeding' は，他の分詞と畳用されていない。'trying with...' という，やはり分詞構文が，その主文だからである。

分詞構文は副詞成分[11] としての機能をもつが，それが修飾するものを本稿では，主文と呼ぶ。

ここで，*Animal Farm* 中で，主文には，定動詞構造のものの他にどのようなものがあったかについて触れよう。

主文が分詞構造であるものは，40. の他に，41. 42.，合計5例あった。

41. To see him toiling up the slope inch by inch, his breath coming fast, the tips of his hoofs clawing at the ground, and his great sides matted with sweat, filled everyone with admiration.—p.55.

42. ...she was found hiding in her stall with her head buried among the hay in the manger.—p.39.

41. においては，分詞構文を構成する分詞が3つ並列されているので，3例として数えた。これら分詞構文の主文は，'To see' に続くネクサスで

ある 'him toiling up the slope inch by inch' である。

42. においては， with に導かれる分詞構文(With 構造と呼ぶ)の主文は，'hiding in her stall' である。

主文が不定詞構造であるものは，5例あった。

43. ...he amused himself in the evenings by making cocks fight with splinters of razor-blade tied to their spurs.—p.82.

44. ...they were astonished to see Benjamin come galloping from the direction of the farm buildings, braying at the top of his voice.—p.103.

45. At about half past nine Napoleon, wearing an old bowler hat of Mr Jones's, was distinctly seen to emerge from the back door....—p.92.

46. ...they allowed him to remain on the farm, not working with an allowance of a gill of beer a day.—p.100.

47. And Squealer, who happened to be passing at this moment, attended by two or three dogs, was able to put the whole matter in its proper perspective.—p.60.

43. では，'making' に続くネクサス 'cocks fight'，44. では，'see' に続くネクサス 'Benjamin come galloping...'，46. では，'allowed' に続くネクサス 'him to remain on the farm' が主文である。45. は，形容詞的な分詞構造とも考えられる例であるが，'to emerge...' に並列して2つの動詞句が後続し，またこれらのどれもが，当該分詞構文の主文であるが故に，かかる位置にあると思われるのである。47. は，'happened to' が機能上副詞に近い働きをするため，後続する 'be passing' という不定詞構造が，主文と思われる。

主文が動名詞構造であるものは，1例あった。

48. Then a sheep confessed to having urinated in the drinking pool —urged to do this, so she said, by Snowball....—p.73.

(4) 「並列」

49. ...Snowball climbed up and set to work, with Squealer a few rungs below him holding the paint-pot.—p.23.

50. ...the pigs took Mr Jones's clothes out of the wardrobes and put them on, Napoleon himself appearing in a black coat, ratcatcher breeches, and leather leggings, while his favourite sow appeared in the watered silk dress....—p.115.

「結果」と異なり，主文の‘時’と重なることが多い。この点から「付帯状況」に含めることが可能なようであるが，主文の動作状態に付帯している，というよりもむしろ，独立しており，主文と等位的に考えられるものである。単純分詞構文には，余り例が無いであろう。以上2例とも，主要素は現在分詞であり，主文の後に位置していた。他の分詞構文と畳用されていなかった。

(5) 「**譲歩**」

51. Rations, reduced in December, were reduced again in February, and lanterns in the stalls were forbidden....—p.97.

52. When the animals had assembled in the big barn, Snowball stood up and, though occasionally interrupted by bleating from the sheep, set forth his reasons for advocating the building of the windmill.—p.47.

53. Frightened though they were, some of the animals might possibly have protested....—p.77.

51. は付加説明のように解釈することが十分可能であり，「譲歩」にも解釈することができる，という程度である。「譲歩」の意味を明確にするためには，52. 53. のように，接続詞‘though’を補う必要があろう。51. 52. は，主文の動詞の直前に，53. は，主文の前に位置していた。3例とも，他の分詞構文と畳用されていなかった。

(6) 「**条件**」

54. A pile of straw in a stall is a bed, properly regarded.—p.60.

主要素は過去分詞であり，主文の後に位置していた。他の分詞構文と畳

用されていなかった。会話部分のなかにあった例である。会話部分のなかにあった分詞構文は本例と，4.の，合計2例であった。

4. In sheer malignity, thinking to set back our plans and avenge himself for ignominious expulsion, this traitor has crept here....—p.62.

### (7) 「方法・手段」

この分詞構文は，「付帯状況」グループに加えることが可能なものである。分詞構文は，Curme の言う 'Predicate Appositive'[12] の一つであるが，このなかには，前置詞付動名詞のパターンに平行しているかのように思えるものがある。[13]

55. Holding on to the rope firmly, I came safe to the ground. (=By holding on to the rope firmly, etc.) [Curme]

55.の分詞構文は，主文との関連において，「方法・手段」を表していることが明らかである。

*Animal Farm* 中で，このような例は，気付いた限りでは1例あった。

56. Reading out the figures in a shrill, rapid voice, he proved to them in detail that....—p.95.

### (8) 「付帯状況」

他の意味を併せもつものを差し引くと，「付帯状況」の用例は114例あった。分詞構文の全用例158例の約72%にあたる。もし，他の意味のグループに含めた，「付帯状況」の意味を併せもつ用例を加えれば，*Animal Farm* の分詞構文の用例の80%近くが「付帯状況」の意味をもつと言うことができる。

一般に分詞構文は，「付帯状況」の意味をもつことが最も多いと言われる[14]が，*Animal Farm* の用例についても同じことが言えるわけである。

本稿Iで述べたように，「付帯状況」の用例が一般に最も多いこと，そして，この意味をもつ分詞構文に平行する節形式の発見が困難である以上，

文語においてはもちろん[15]，口語においてすら，現在のところ，分詞構文が使用される可能性は十分あるのである。そして，同じことが，独立分詞構文についても言えるわけで，従って，次のように言うことは，尚早と思われるのである。

The absolute participle-construction is not only uncolloquial, but is by many felt to be un-English, and to be avoided in writing as well.[16]

●114例のうち，主要素が現在分詞のものは91例，過去分詞のものは23例であった。

この意味の分詞構文では，現在分詞が主要素であるものが多かった。

他の意味の分詞構文の用例中で主要素が現在分詞であるものは，「原因・理由」については15例中9例，「時」は11例中9例，「結果」は11例中10例，「譲歩」は3例中0例，「条件」は1例中0例，「並列」は2例中2例，「方法・手段」は1例中1例である。これらに「付帯状況」の用例を加えると，合計158例中，122例が主要素として現在分詞をもっている。一般に，分詞構文に用いられる分詞は，過去分詞よりも現在分詞の方が多い，と言われる[17]が，*Animal Farm* の用例においても同じことが言えるのである。

「付帯状況」の意味をもち，過去分詞を主要素とする23例のうち，過去分詞の前に 'being' が補われているものは無かった。*Animal Farm* 中で，このような例は，「原因・理由」と「結果」の用例の中に各1例あった。これらと比べると，主文の '時' と重なる度合の高い，「付帯状況」の用例中には，'being' が補われているものは無かったのである。

●完了分詞を用いた用例は無かった。

完了分詞は，述語動詞によって表されている '時' よりも以前に生じた事柄を表す[18]のだから，主文の '時' と重なる度合の高い「付帯状況」グループに完了分詞の用例が無いことは当然であろう。

●主文の前に位置するもの14例，後に位置するもの92例，主文の動詞の前に位置するもの6例，主文の動詞の後に位置するもの2例であった。

〔主文の前〕

57. Led by three young Black Minorca pullets, the hens made a determined effort to thwart Napoleon's wishes.—p.6.

58. Terrified, the animals waited.—p.88.

この位置にある14例のうち，10例が，過去分詞を主要素としていた。57.58.は，他の分詞構文と畳用されていなかったが，双方とも過去分詞を主要素としていた。

〔主文の後〕

この位置にある92例のうち，82例が，現在分詞を主要素としていた。主文の前の位置にある場合に比べ，圧倒的に現在分詞が多かったのである。

59. ...four large rats had crept out of their holes and were sitting on their hind quarters listening to him.—p.11.

60. Moses sprang off his perch and flapped her, croaking loudly.—p. 19.

61. Even the ducks and hens toiled to and fro all day in the sun, carrying tiny wisps of hay in their beaks.—p.25.

62. '...Surely you remember *that* comrades?' exclaimed Squealer, frisking from side to side.—p.71.

63. All the animals followed, crying out at the tops of their voices. —p. 104.

以上5例を含む，他の分詞構文と，畳用されていないものは，33例あったが，29例が現在分詞を主要素としており，やはり，現在分詞が多かった。

〔主文の動詞の前〕

64. On Sunday mornings Squealer, holding down a long strip of paper with his trotter, would read out to them lists of figures....—p.79.

65. Napoleon himself, attended by his dogs and his cockerel, came down to inspect the completed work....—p.84.

6例中3例が，過去分詞を主要素としており，主文の前に位置するもの

と同様，過去分詞を主要素とする例が多かった。

〔主文の動詞の後〕

66. ...he cried indignantly, whisking his tail and skipping from side to side, surely they knew their beloved Leader, Comrade Napoleon, better than that?—p.106.

互いに畳用されている，この2例だけであったが，双方共，現在分詞を主要素としていた。

● 他の意味の分詞構文と畳用されたり，同じ意味のもの同士，つまり，互いに畳用されているものは，114例の「付帯状況」の用例中，79例であった。

他の意味の分詞構文に比べて，互いに畳用されているものがはるかに多い。畳用されているものは，ほとんど，「付帯状況」の用例であるとも言える。

いま，分詞構文の位置別に，その畳用の形態について触れる。

〔主文の前〕

この位置にあるもの14例中10例が互いに畳用されていた。残りの4例も，その2例が，「付帯状況」の分詞構文に対応する，形容詞を主要素とする構造（形容詞構造と呼ぶ）と，畳用されていた。

分詞の主語が補われており，畳用されているものは，2例あったが，それらは，With 構造であり，一般に言う独立分詞構文（non-With 構造と呼ぶ）ではなかった。

○ ing＋ing

67. Smiling beautifically, and wearing both his decorations, Napoleon reposed on a bed of straw on the platform, with the money at his side....—p.86.

さらに，これらは，主文の後の，「付帯状況」の分詞構文に平行する，前置詞句を主要素とする with 構造と畳用されている。

○ pp.＋pp.

68. Too amazed and frightened to speak, all the animals crowded through the door to watch the chase.—p.48.

○ pp.＋pp.＋ing

69. Amazed, terrified, huddling together, the animals watched the long line of pigs march slowly round the yard.—p.113.

○ With 構造 (pp.)＋With 構造 (pp.)

70. With his books held open by a stone, and with a piece of chalk gripped between the knuckles of his trotter he would move rapidly to and fro, drawing in line after line and uttering little whimpers of excitement.—p.44.

さらに，これらは，主文の後の，現在分詞を主要素とする，二つの「付帯状況」分詞構文と，畳用されている。

主要素が，分詞，形容詞，前置詞句等であるもの，総じて，たとえ用法が異なっても，With 構造の畳用が，普通避けられる，と言われる。[19] しかし，70. では，主文の動作に完全に「付帯」する，2つの事柄を，均等に，個別に表現したいがために，With 構造が畳用されたと思われる。

70. は，主文の後に，2つの分詞構文がさらに畳用されている。With 構造を含めた，4つの分詞構文の意味は，「付帯状況」という点では共通するであろう。従って，主文の前の With 構造を，主文の後に移動し，2つの With 構造と，2つの単純分詞構造を並列させることも可能であろう。しかし，4つの分詞構文は，「付帯状況」の意味は持っているが，各構成素の動詞の意味に注意して考えると，With 構造の方は，主文の動作に完全に「付帯」している，一方，単純分詞構造は，その「付帯」の仕方が，断続的なものである。この点が，70. において，With 構造と単純分詞構造が分離されている一つの要因だと考えられるのである。

主文の前で，形容詞を主要素とするものと畳用されているものには，次の2例があった。

71. Silent and terrified the animals crept back into the barn.—p.48.

72. Tired out but proud, the animals walked round and round their

masterpiece....—p.84.

このような形容詞構造で，'being' が補われている 用例を 発見することはできなかった。

73. は， With 構造が，主文の後の意味の異なる分詞構文と畳用されている例である。

73. With the ring of light from his lantern dancing from side to side, he lurched across the yard, kicking off his boots at the back door....—p.5.

〔主文の後〕

この位置にあるもの92例中55例が互いに畳用されていた。残りの37例のなかには，主文の前にある分詞構文や，形容詞構造と畳用されているものがあった。

分詞の主語が補われ，この位置で畳用されているものは，17例あった。そのうち，With 構造は，9例，non-With 構造は，8例であった。

○ ing+ing

74. The two cart-horses, Boxer and Clover, came in together, walking very slowly and setting down their vast hairly hoofs....—p.6.

75. 'Fools! Fools!' shouted Benjamin, prancing round them and stamping the earth with his small hoofs.—p.103.

76. He repeated a number of times, 'Tactics, comrades, tactics!' skipping round and whisking his tail with a merry laugh.—p.52.

74.75.76. を含め，このパターンを構成しているものは，30例であった。次のように否定副詞をもつ分詞構文からなる場合もあった。

77. ...the two of them usually spent their Sundays together in the small paddock beyond the orchard, grazing side by side and never speaking. —p.7.

78. He did his work in the same obstinate way as he had done it in Jones's time, never shirking, and never volunteering for extra work either. —p.27.

○ ing+ing+ing

79. For whole days at a time he would lounge in his Windsor chair in the kitchen, reading the newspapers, drinking and occasionally feeding Moses....—p.18.

○ ing＋non-With 構造 (ing)

80. It was nearly nine o'clock when Squealer made his appearance, walking slowly and dejectedly, his eyes dull, his tail hanging limply behind him....—p.92.

この例は，形容詞構造 'his eyes dull' とも畳用されている。

○ pp.＋non-With 構造 (pp.)

81. Yes, there it lay, the fruit of all their struggles, levelled to its foundations, the stones they had broken and carried so laboriously scattered all around.—p.62.

○ non-With 構造 (ing)＋non-With 構造 (ing)

82. If she herself had had any picture of the future, it had been of a society of animals set free from hunger and the whip, all equal, each working according to his capacity, the strong protecting the weak....—p.76.

この例は，形容詞構造 'all equal' とも畳用されている。

○ non-With 構造 (ing)＋non-With 構造 (ing)＋non-With 構造 (pp.)

83. To see him toiling up the slope inch by inch, his breath coming fast, the tips of his hoofs clawing at the ground, and his great sides matted with sweat, filled everyone with admiration.—p.55.

○ ing＋With 構造 (ing)

84. ...out came Napoleon himself, majestically upright, casting haugh-ty glances from side to side, and with his dogs gambolling round him.—p.113.

○ With 構造 (ing)＋non-With 構造

85. Napoleon...sat on the front of the raised platform, with the nine young dogs forming a semicircle round them, and the other pigs sitting behind.—p.51.

○ ing＋With 構造 (pp.)

86. The four pigs waited, trembling, with guilt written on every line

of their countenances.—p.73.

○ With 構造 ($ing_1+ing_2$)

87. ...they were in ignominious retreat by the same way as they had come, with a flock of geese hissing after them and pecking at their calves all the way.—p.38.

○ ing+With 構造 ($ing_1+ing_2$)

88. ...Napoleon emerged from the farmhouse, wearing both his medals...with his nine huge dogs frisking round him and uttering growls that sent shivers down all the animals' spines.—p.72.

〔主文の動詞の前〕

この位置にあるもの6例のうち畳用されているものは無かった。他の位置にあるもの，又，分詞以外を主要素とするものとも畳用されていなかったのである。

〔主文の動詞の後〕

66.の2例だけであった。ing+ing のパターンであった。

以上，〔主文の前〕，〔主文の後〕，〔主文の動詞の前〕，〔主文の動詞の後〕の位置での，畳用のパターンについて検討した。*Animal Farm* においては，同じ位置で，単純分詞構文と独立分詞構文 (With 構造，non-With 構造) が並列される場合，常に，独立分詞構文の方が，後に位置していた。

## III

分詞の意味主語が，主文の主語と異なり，分詞構造に，その意味主語が補われているものが，独立分詞構文と呼ばれる。本稿では，いわゆる「付帯状況の With」に導かれるものも，この範ちゅうに加え，それぞれ，non-With 構造，With 構造と呼んだ。

極端な例として Pearl S. Buck が non-With 構造のみを使用している[20]

ように，作家の好み等によって，一方が他方より頻繁に使われることもある。[21] しかし，*Animal Farm* 中での両構造の使用頻度には，余り差が無かった。

non-With 構造は21例，With 構造は17例である。後者の用例のなかには，複数の分詞が共通の主語をもつものがあり，この場合，1例と数えた。non-With 構造には，このような例は無かった。

以下，non- With 構造，With 構造，それぞれの主語，主要素，畳用，位置について検討してみよう。

| non-With 構造 | | | |
|---|---|---|---|
| 頁 | 用　　例 | 畳　用 | 位置 |
| p.8 | all of them living... | | 主文の後 |
| p.24 | their trotters being well adapted... | | 主文の後 |
| p.39 | each recounting... | | 主文の後 |
| p.40 | a hawthorn bush being planted... | | 主文の後 |
| p.51 | the other pigs sitting... | (畳)With 構造と | 主文の後 |
| p.55 | his breath coming fast | (畳) 互いに畳用 | 主文の後 |
| p.55 | the tip of his hoofs clawing... | (畳) 互いに畳用 | 主文の後 |
| p.55 | his great sides matted... | (畳) 互いに畳用 | 主文の後 |
| p.62 | the stones they had broken and carried so laboriously scattered... | (畳)単純分詞構文と | 主文の後 |
| p.67 | a grocer's van driving... | | 主文の後 |
| p.68 | the other animals following... | (畳)主要素が前置詞句の With 構造と | 主文の後 |
| p.76 | each working... | (畳)次の non-With 構造，形容詞構造と | 主文の後 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| p.76 | the strong protecting... | (畳)前の non-With 構造，形容詞構造と | 主文の後 |
| p.87 | his tail rigid and twitching | | 主文の後 |
| p.87 | one of them bearing... | | 主文の後 |
| p.92 | his tail hanging... | (畳)単純分詞構文，形容詞構造と | 主文の後 |
| p.101 | his neck stretched... | (畳)形容詞構造と | 主文の後 |
| p.101 | his sides matted... | | 主文の後 |
| p.113 | all walking... | | 主文の後 |
| p.115 | Napoleon himself appearing... | | 主文の後 |
| p.120 | the applause having come to an end | | 主文の前 |

| With 構造 | | | |
|---|---|---|---|
| 頁 | 用　　例 | 畳　　用 | 位置 |
| p.5 | with the ring of light from his lantern dancing... | (畳)単純分詞構文と | 主文の前 |
| p.19 | with the animals pursuing... | | 主文の後 |
| p.23 | with Squealer a few rungs below him holding... | | 主文の後 |
| p.25 | with a pig walking behind and calling out... | | 主文の後 |
| p.26 | with the worthless human beings gone | | 主文の前 |
| p.38 | with a flock of geese hissing ...and pecking at... | | 主文の後 |
| p.39 | with her head buried... | | 主文の後 |
| p.44 | with his books held... | (畳)次の With 構造，単純分詞構文と | 主文の前 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| p.44 | with a piece of chalk gripped... | (畳)前の With 構造，単純分詞構文と | 主文の前 |
| p.48 | with the dogs following... | | 主文の動詞の前 |
| p.51 | with the nine young dogs forming... | (畳) non-With 構造と | 主文の後 |
| p.72 | with his nine dogs frisking ...and uttering... | (畳)単純分詞構文と | 主文の後 |
| p.73 | with guilt written... | (畳)単純分詞構文と | 主文の後 |
| p.80 | with the tears rolling... | | 主文の動詞の後 |
| p.82 | with splinters of razor-blade tied... | | 主文の後 |
| p.98 | with the pigs leading | | 主文の後 |
| p.113 | with his dogs gambolling... | (畳)単純分詞構文，形容詞構造と | 主文の後 |

〔主語〕

普通名詞，固有名詞，抽象名詞が両構造に見られた。不定代名詞 'each' 'all'，また，'the strong' のように形容詞が Primary を構成しているものが，non-With 構造の分詞の主語の中にあった。

non-With 構造の主語が人称代名詞の場合，主格人称代名詞が使われると言われる[22]が，両構造の用例にも，人称代名詞そのものが主語となっている例は無く，non-With 構造の 'all of them' や 'one of them' のように，部分所有構造の構成素となっているものであった。

修飾成分として関係詞節をもつものが，non-With 構造の用例中にあった。このことからすると，non-With 構造を「speed のある言い方」と考える[23]ことには問題があるように思える。

〔主要素〕

non-With 構造の主要素 21 のうち，15が現在分詞，With 構造の主要素 20のうち，14が現在分詞であった。ほぼ同じ率といえる。*Animal Farm* の全用例の主要素の約77%が現在分詞であったから，独立分詞構文に過去分

詞が若干多いと言え，やはり現在分詞の数の方が多かったのである。

〔畳　用〕

non-With 構造，21用例中，畳用されているものは10，そのうち5例が，non-With 構造同士で畳用されていた。残りの5例は，単純分詞構文，With 構造，そして次のように，形容詞構造，前置詞句構造（前置詞句を主要素とする With 構造）と畳用されていた。

89. There lay Boxer, between the shafts of the cart, his neck stretched out, unable even to raise his head.—p.101.

90. With his dogs in attendance he set out and made a careful tour of inspection of the farm buildings, the other animals following at a respectful distance.—p.68.

With 構造，17用例中，畳用されているものは7，そのうち2例が，With 構造同士で畳用されていた。残りの5例は，単純分詞構文，non-With 構造，形容詞構造と畳用されていた。

〔位　置〕

non-With 構造，21例中，主文の前に位置するもの1例，主文の後に位置するものは20例であった。主文の動詞の前や後，すなわち，主文中に挿入されている例は無かった。

With 構造，17例中，主文の前に位置するもの4例，主文の後に位置するものは11例であった。さらに，主文中に挿入されているものは2例であった。

両構造共，主文の前に位置するものは少なく，non-With 構造では，「原因・理由」に解釈される1例のみ，With 構造では，「付帯状況」に解釈される3例と「原因・理由」に解釈される1例の4例であった。ただ，少ないながらも，With 構造の用例の方が，non-With 構造のものより，主文の前に位置することが多かったのである。一般に，分詞以外の主要素を含む場合もいれて，With 構造の方が，non-With 構造よりも．文頭もしくは，節頭に使われることが多いと言われる[24]が，主要素を分詞のみに限定した場合でも同じことが言えるであろう。

## IV

分詞構文中の副詞の位置について，次の文例を挙げ，'constantly' が分詞の前にきては，いけない，分詞構文中では，not 以外の副詞は後置される旨が記述されている書[25]がある。

The troubles on the world money market...provided a sombre backdrop to our discussions, *reminding us constantly* of the fragility of the institutional structures.—*The Listener of the B.B.C.*

「分詞先行の原則」と呼ばれるそうである。

以下，本章では，*Animal Farm* 中の分詞構文における，主要素を修飾する副詞の位置について検討しよう。但し，本稿では，成句の一部であったり，particle のような副詞については考慮に入れない。

〔現在分詞を主要素とする場合〕

分詞の前、分詞の後にある副詞には．次のものがあった。（　）中の数字は使用回数を表す。

| | |
|---|---|
| 分詞の前 | never (4)　not (3)　occasionally (2)　hardly (1)　once (1)<br>rapidly (1)　suddenly (1)　sometimes (1)　well (1) |
| 分詞の後 | slowly (2)　beautifically (1)　dejectedly (1)　feebly (1)<br>firmly (1)　limply (1)　loudly (1)　together (1) |

※once は，完了分詞に挿入されていた。

これらの副詞を含む，現在分詞を主要素とする分詞構文は，22例であった。そのうち，14例が，副詞が主要素の前にあった。

(never)

91. He did his work in the same obstinate way as he had done it in Jones's time, never shirking, and never volunteering for extra work either.—p.27.

(not)

92. The animals huddled about Clover, not speaking.—p.75.

(occasionally)

93. Napoleon paced to and fro in silence, occasionally snuffing at the

ground.—p.62.

(hardly)

94. They worked diligently, hardly raising their faces from the ground....—p.115.

(rapidly)

95. ...in another moment the van was through it and rapidly disappearing down the road.—p.105.

(suddenly)

96. But they woke at dawn as usual, and suddenly remembering the glorious thing that had happened,they all raced out into the pasture together. —p.20.

(sometimes)

97. He...would stand staring at the letters, sometimes shaking his forelock, trying with all his might to remember what came next....—p.30.

(well)

98. The animals carried on as best as they could with the rebuilding of the windmill, well knowing that the outside world was watching them ....—p.64.

さて，93.～98.の分詞構造を，主語を補った単純過去の定動詞構造に書き換えてみると，'hardly' を除いて，副詞を定動詞の後方，例えば，∧の位置に移動できる。

93′ he occasionally snuffed∧at the ground∧

94′ they hardly raised their faces from the ground

95′ it rapidly disappeared∧down the road∧

96′ they suddenly remembered∧the glorious thing

97′ he sometimes shook his forelock∧

98′ ?they well knew∧that the outside world was watching them

94.の 'hardly' は，完全に定動詞構造の位置と同じである。93. 95. 96. 97.の 'occasionally' 'rapidly' 'suddenly' 'sometimes' は，定動詞構造と同じ位置，つまり分詞の後に置くことが可能であるにも拘わらず，分詞の前に位置している。さらに，98.の 'well' に到っては，その原因が，'well' と 'know' の組み合わせによるのか，'well' 自体によるのか，今後の調査によ

って判断しなければならないが，とにかく，定動詞構造において普通，動詞の後にあるものが，分詞の前に位置している。

また，*Animal Farm* 中には，例が無かったが，'surely' 'happily' 等の文修飾副詞は，文頭にあることが多く，分詞構造においても，この文修飾的意味を変えずに，分詞より後に置くこと，つまり，「分詞を先行」させることは難かしいように思える。

〔過去分詞を主要素とする場合〕

(half) 1例

99. At the gate they paused, half frightened to go on, but Clover led the way in.—p.116.

(neatly) 1例

100. ...Napoleon reposed on a bed of straw on the platform, with the money at his side, neatly piled on a China dish from the farmhouse kitchen.—p.86.

(properly)

101. A pile of straw in a stall is a bed, properly regarded.—p.60.

(occasionally) 1例

102. When the animals had assembled in the big barn, Snowball stood up and, though occasionally interrupted by bleating from the sheep, set forth his reasons....—p.47.

(temporarily) 1例

103. Squealer, temporarily stunned, was sprawling beside it....—p.93.

(well) 1例

104. ...the pigs sent for buckets and milked the cows fairly successfully, their trotters being well adapted to this task. —p.24.

6例共副詞が分詞に先行していた。「分詞が先行する」例は無かったのである。受動態の定動詞構造において，動詞を修飾する副詞は，通例，動詞の前にくる[26]が，過去分詞を主要素とする分詞構造についても同じことが言えたわけである。

以上，*Animal Farm* 中の用例に限って言えば，分詞構文中の，分詞を修

飾する副詞の位置について，「分詞が副詞に先行する。」とは言い難く，定動詞構造において可能な位置にほぼ平行する，と言えよう。

（註）

1) Sweet, H., *A New English Grammar* (Oxford, 1892–1898),§2345, §2351.
2) 『英語語法大事典第3集』（大修館，1981），p.423.
3) 安藤貞雄『英語語法研究』（研究社，1978），p.129.
4) 安藤，p.183.
5) 『新英文法辞典』（三省堂，1970），p.725.
6) 南雲堂のテキストでは 'making'
7) 尾上政次『現代米語文法』（研究社，1974），p.103.
8) 本稿では With に導かれるものも含めるが，ここでは With に導かれないもの。
9) 小西友七『英語基本動詞辞典』（研究社，1981），p.689.
10) Charleston, B.M. 著，中川清訳『英語動詞のシンタクスの研究』（研究社，1959），p.21.
11) 本稿では，一応，文修飾の副詞成分と考えておく。
12) Curme, G.O., *Syntax* (Maruzen Asian Edition, 1974), p.30.
13) Curme, p.258.
14) 安井稔『英文法総覧』（開拓社，1982），p.153.
15) 文の定動詞の数を減らすために，特にジャーナリスティックな英語では，よく使われる。[Close, A., *English as a Foreign Language* (Allen, 1962), §281 (b).]
16) Sweet, §2351.
17) 小西友七『時事英語文法』（大学社，1981），p.112.
18) 安井，p.258. さらに，本稿II(3)参照。
19) 松田裕『英語語法の諸相』（篠崎書林，1977），pp.49–50.
20) 安藤，p.185.
21) 松田，p.34.
22) Zandvoort, R.W., *A Handbook of English Grammar* (Maruzen Company, 1981), §87.
23) 尾上政次『アメリカ語法の研究』（研究社，1953），p.15.
24) 松田，p.51.
25) 原沢正喜『現代英語の用法大成』（大修館，1979），p.28.
26) 安井，p.287.

（参考文献）としては，（註）に挙げたものの他に，次の2点がある。

Jespersen, O., *Essentials of English Grammar* (Allen, 1933).
Leech G.N. 著，国廣哲彌訳注『意味と英語動詞』（大修館，1976）.